

日（日曜日）

函館新聞

（第3種郵便物認可）



手話をしながらスピーチする福井さん

函館盲・聾学校130周年記念式典

節目祝い劇やスピーチ

伝統と歴史継承誓う

北海道函館盲・聾学校は26日、同聾学校（深堀町）で同校の創立130周年記念式典を開いた。在校生や保護者、来賓ら約150人が出席して記念の節目を祝い、伝統と歴史の継承を誓った。

（中島遼太郎）

同校は1905年（明治28）、米国婦人のシャロツ・ピンクニー・ドレイパ氏が「函館訓育会」として創設し、1950年（昭和25）に現在の同校に分離独立。これまでに2400人以上の卒業生を送り出した。

午前中に行われた「創立130周年記念学習発表会」では、同校の幼児児童生徒が、130周年にちなんだ劇や発表を行った。

式典では、同盲学校の齋藤輝幸校長と聾学校の飯出広行校長があいさつ。齋藤校長は「子どもたちは自身の障害と向き合い、困難を克服、改善しよ」と努

力しながら一生懸命、130周年を迎えることはできなかった。歴史と伝統に感謝し、皆さんと手を取り合い新たな価値を作り出してほしい」と述べた。飯出校長は「卒業生、保護者、ボランティア、地域の方々との理解と協力がなければ130年、中村柚蒼さんと同聾学校中学校2年、福井優馬さんが同校の代表として「よこびの言葉」を発表。福井さんは「どんな時代になっても同校で大切にされてきた学び合うことや、助け合うことは変わらぬに必要なことだと思う。130周年の節目から私たちは自分の力を信じて歩んでいきます」と力強く語った。

このほか、同窓生による